

介護と人生

仕事・子育てと
どう両立させる？

日本エルターライフ協会 代表理事
ケアライフアドバイザー

柴本美佐代

27

介護への過剰な要求となり、クレームになってしまいます。施設との関係も悪くなって入所を後悔するということになりかねません。

施設では家族ができない介護ができます。家族よりも安心で楽な介助の技術を職員は身に付けています。

日本で初めてホスピスを作った柏木哲夫医師は「患者を支えるには技術が必要で、寄り添うには人間力が 필요하다」と言われています。それは介護でも同じではないでしょうか。

「1人で生活できない人を支えるには相応の技術が必要ですから、施設で介護職員に任せても良いのではありませんか？ でも寄り添うのはご家族だからできることです。罪悪感を持つよりも、心に寄り添うために会いに行かれたらいいかがですか」。私は相談にこう答えました。

どのように寄り添うかを考えるのは介護者自身です。

施設入所の罪悪感

先日、母親を介護している男性介護者からこんな相談を受けました。

「今は在宅介護をしているが、要介護度が上がったので申し込んでいる施設から『そろそろ入所できるかもしれない』と言われた。

ところが、自分自身の気持ちの整理がつかない。いざ入所となると申し訳なくて

断ろうかと悩んでいる」

在宅介護を続けた人が施設入所に強い罪悪感を持つのはよくあることで、入所を断ることもあります。「入所＝家族（要介護者）を見捨てる」という気持ちにならないからです。

一つは要介護者本人が「家にいたい」と訴えるからですが、社会全体に「介護は家族がすべき」という根強い意識がある事も罪悪感を生む原因です。ですが、介護者が1人の場合、重度化しても在宅介護を続けるのがベストなのではないでしょうか？ それとも、罪悪感を持ちながら施設に入れるのが良いのでしょうか？

施設入所を決めるときは、少なくとも介護者が気持ちの整理をしてからにしましょう。罪悪感が施設介

気持ちの整理をして入所！



家族としての寄り添い方を考える